

平成26年度
「新 輝け! ちば元気プラン」
主な取組の実施状況について【抜粋】



平成27年9月18日

千葉県総合企画部政策企画課

目 次

(頁)

平成26年度実施状況の概要

(1) 基本目標Ⅰ 安全で豊かなくらしの実現

I - 1 自助・共助・公助が連携した防災先進県づくり	・・・	1
I - 2 安全で安心して暮らせる社会づくり	・・・	2
I - 3 健康で長生きできる社会づくり	・・・	3
I - 4 豊かな心と身体を育てる社会づくり	・・・	4
I - 5 みんなで守り育てる環境づくり	・・・	5

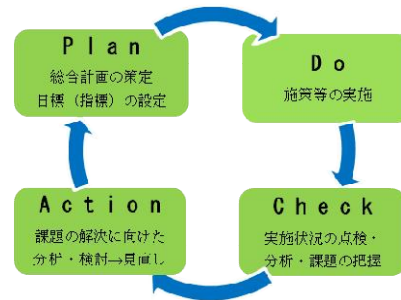
(2) 基本目標Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成

Ⅱ - 1 子どもと子育て世代への強力サポート体制づくり	・・・	6
Ⅱ - 2 世界に通じ未来支える人づくり	・・・	7

(3) 基本目標Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備

Ⅲ - 1 千葉の輝く魅力づくり	・・・	8
Ⅲ - 2 挑戦し続ける産業づくり	・・・	9
Ⅲ - 3 豊かな生活を支える食と緑づくり	・・・	10
Ⅲ - 4 活力ある県土の基盤づくり	・・・	11

県では、重点的な施策・取組の推進にあたって、総合計画の進行管理を、計画（Plan）—実施（Do）—評価（Check）—改善（Action）という政策評価の手法を活用したマネジメントサイクルに基づいて、毎年度行っています。



本書は、総合計画に位置付けられている主な取組の平成26年度における実施状況となります。

なお、総合計画の内容や実施状況の詳細につきましては、県ホームページをご覧ください。また、県庁本庁舎2階県政情報コーナーや各地域振興事務所、県図書館等において閲覧することができます。

県HP ・千葉県総合計画「新 輝け！ちば元気プラン」【平成25～28年度】
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/sougou/singenkiplan.html>
・「新 輝け！ちば元気プラン」の進行管理【平成25～28年度】
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/hyouka/shinkoukanri/index3.html>

(1) 基本目標Ⅰ 安全で豊かなくらしの実現

政策分野 1 自助・共助・公助が連携した防災先進県づくり

【地域防災力の向上】

○平成26年度実施状況

平成26年4月に施行された「千葉県防災基本条例」の目的である地域防災力の向上を図るため、地域防災に関する講演や先進的な自主防災組織の活動事例を紹介する地域防災力向上セミナーを6回（参加者約1,500人）、災害対策コーディネーターの養成講座を4回（新規登録者数194人）実施しました。



災害対策コーディネーター養成講座

○今後の課題・取組方針

災害発生時の被害を最小限にとどめるためには、共助の取組が重要であり、県民や地域の防災意識のさらなる高揚を図ることが重要です。

そのため、地域の実情を踏まえた自主防災組織の育成や消防団の活性化など、市町村が創意工夫を持って取り組む事業を支援する補助制度（千葉県地域防災力向上総合支援補助金）を創設し、地域防災力の向上を図ります。

【危機管理対策の推進】

○平成26年度実施状況

新型インフルエンザ等の発生に備え、抗インフルエンザウイルス薬（タミフル114万3千人分、リレンザ25万7千2百人分）の備蓄や医療機関などへの研修会を14回実施するなど、危機管理対策を着実に推進しました。



抗インフルエンザウイルス薬の備蓄

○今後の課題・取組方針

中国における鳥インフルエンザの発生など、今後、国内における新型インフルエンザ等の発生も懸念されていることから、新型インフルエンザ等の発生時に備え、引き続き研修会を実施し正しい知識を普及するとともに、国が示した備蓄の考え方に従い、常に目標値の抗インフルエンザウイルス薬を確保します。

【犯罪の起こりにくい、安全で安心して暮らせる社会の構築】

○平成26年度実施状況

平成25年11月から開始したコンビニ防犯ボックス設置等モデル事業の効果を検証したところ、侵入窃盗の大幅な減少（対前年比▲59.3%）や地域住民の地域治安評価が向上しており、十分な事業効果が認められたことから事業拡大について検討を行い、平成27年度に新たに2箇所（船橋市、柏市）設置することとしました。



防犯ボックス（千葉市）

○今後の課題・取組方針

防犯ボランティア団体の高齢化が進んでいることから、学生など、次世代による防犯パトロール隊の結成促進や活動の充実を図るため、防犯資機材の貸与等を実施するとともに、県、県警、市町村、住民が連携して行う共同現地診断の実施等により地域単位での活動の活性化を図ります。

【交通安全県ちばの確立】

○平成26年度実施状況

県、県警、市町村に加え、教育関係者、企業、地域の交通安全推進団体が連携してキャンペーンを実施することで、広く県民に働きかけを行うとともに、交通安全環境の整備や交通指導取締りの強化との相乗効果により、施策の指標である「交通事故死傷者数」の減少（対前年比▲2,334人）に大きく寄与しました。



全国交通安全運動出動式

○今後の課題・取組方針

交通死亡事故において、高齢者の占める割合が高いことや、危険な走行をする自転車が散見されることから、高齢者に対する研修の実施や、LEDバンドの普及など高齢者の交通事故防止を図るとともに、自転車交通安全教室の実施等により自転車利用のルール徹底や改正道路交通法の周知を図り、交通事故の防止に努めます。

【安心で質の高い医療サービスの提供】

○平成26年度実施状況

救急患者搬送時間短縮のために救急コーディネーターを3地域（東葛飾地域、香取海匝地域、山武長生夷隅地域）に配置し、救急患者の搬送先の調整を行うとともに、ドクターヘリや救命救急センター等に対する運営費の補助や、平成26年4月に開設された東千葉メディカルセンターの施設・設備整備に対する財政支援を実施し、救急医療体制の整備に努めました。



東千葉メディカルセンター

○今後の課題・取組方針

県民に効率的で切れ目のない医療を提供するためには、急性期病院と回復期病院、かかりつけ医の連携が重要であることから、かかりつけ医と地域の拠点病院等が必要な情報共有を行える環境を整え、医療機関の機能分化と連携体制の強化・充実を図ります。

【高齢者が生き生きと安心して暮らせる社会の推進】

○平成26年度実施状況

介護事業所との連携が図られているなど、良質なサービス付き高齢者向け住宅を整備する事業者に対し、建設費の一部への補助を開始するとともに、特別養護老人ホーム1床あたりの補助単価を全国トップクラスの400万円と設定し、市町村と連携しながら、高齢期に向けた住まいの充実と多機能化の推進を図りました。



特別養護老人ホーム
ユニット型個室

○今後の課題・取組方針

特別養護老人ホームの整備については、施設介護に対するニーズの一層の増大が見込まれる中、建築工事費の高騰に伴う設置者の負担増により、整備の遅れが懸念されていることから、整備の推進に向け、市町村と密接な連携を図るとともに、財源確保に向けた取組や検討を行います。

【「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進】

○平成26年度実施状況

平成26年10月に「ちばアクアラインマラソン2014」を開催（参加者数：フルマラソン12,969人、ハーフマラソン3,840人）し、県民が参加できるスポーツの機会を提供することで県民のスポーツへの機運を高め、「するスポーツ・みるスポーツ・ささえるスポーツ」の推進に大きく寄与しました。



ちばアクアラインマラソン

また、多くのメディアに取り上げられたことでアクアラインと千葉の魅力を広く発信することができ、開催に伴う経済波及効果は約34億円となり、地域経済の活性化にも寄与しました。

加えて、前回大会の課題であった救護体制や完走率、リタイアランナーの輸送についても改善を図るなど、スポーツを活用した地域の活力づくりを推進しました。

○今後の課題・取組方針

「ちばアクアラインマラソン2016」の開催に向けて、関係機関と協議を進め、運営方法や実施計画を見直し、完走率の向上と国際色豊かな大会を目指すとともに、新たに車いす種目の導入を目指して準備を進めます。

【ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティーの醸成】

○平成26年度実施状況

千葉県民としての意識を醸成し、千葉県に対する愛着や誇りを一層感じられるよう、県民の日制定30周年を記念して、県民参加型イベント「県民の日ちば笑顔まつり」を開催したほか、県内11地域において地域の特色を生かした県民の日地域行事を実施するとともに、県内各地で337件の賛同事業が実施されました。



県民の日ちば笑顔まつり

○今後の課題・取組方針

千葉アイデンティティーの醸成には、より多くの県民に広く千葉の魅力を実感していただくことが必要であることから、引き続き、多彩で個性あふれる千葉の文化や歴史、自然、産業等に触れ、体感することのできる行事を県の各地域において、市町村等と連携して実施します。

【地球温暖化対策の推進】

○平成26年度実施状況

市町村と連携し、一般住宅を対象とした太陽光発電設備や省エネルギー設備の設置に対する補助を実施するとともに、防災拠点や避難場所となる県有施設についても太陽光発電設備などの導入を進めるなど、様々な主体における再生可能エネルギー・省エネルギーの導入を推進し、二酸化炭素排出量の削減に寄与しました。



太陽光発電設備（長生合同庁舎）

○今後の課題・取組方針

地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの削減対策を総合的に推進していくため、引き続き太陽光発電設備などへの補助を実施するとともに、国の動向を踏まえながら、次期「千葉県地球温暖化防止計画」の策定を進めます。

【資源循環型社会の構築】

○平成26年度実施状況

廃棄物の適正処理を推進するため、排出事業者への立ち入り検査や廃棄物処理業者に対する講習会を2回開催（受講者数919人）するなど、産業廃棄物の適正処理に係る事業者への指導と意識啓発に努めました。



ヤード

また、県民の生活環境を保全し、平穏な生活を確保するため、平成26年12月に全国で初となる「千葉県特定自動車部品のヤード内保管等の適正化に関する条例」（ヤード適正化条例）を制定しました。

○今後の課題・取組方針

自動車リサイクル法など各種法令に違反した行為が行われている「不法ヤード」への対策を強化し、ヤードの適正化を図る必要があることから、県内全てのヤードを対象に、順次、立入りを実施し、県警と連携して不法ヤードの一掃に向けた取組を推進します。

(2) 基本目標Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成

政策分野 1 子どもと子育て世代への強力サポート体制づくり

【地域による子育て支援の充実】

○平成26年度実施状況

保育所における待機児童の早期解消に向け、「安心こども基金」の活用や県単独の上乗せ補助制度により民間保育所の施設整備を支援し、定員数が4,273人増加しました。

○今後の課題・取組方針

就労機会の比較的高い都市部を中心に、就労を希望する保護者が増えていることから、保育所の整備を進め、保育サービスを拡充するとともに、小規模保育事業や家庭的保育事業などの地域型保育事業を促進するなど、入所待機児童の解消を図ります。

【親への育児支援と子育てしやすい職場環境づくり】

○平成26年度実施状況

企業におけるワーク・ライフ・バランスを推進するため、労働関係セミナー等を12回開催（参加者数延1,473人）し、有識者による講演や企業の先進的な取組の事例発表を行い、企業経営者等の理解促進を図りました。



労働関係セミナー

○今後の課題・取組方針

人口減少・少子高齢化社会が進行する中、仕事と家庭の両立を目指し、「多様な働き方を選択できる社会」の実現が強く求められています。そのため、企業などのワーク・ライフ・バランスに対する理解を一層深めるため、労働・雇用情勢に応じたテーマの設定や広報を工夫し、セミナー参加者の増加を図ります。

【過去と未来をつなぎ世界にはばたく人材の育成】

○平成26年度実施状況

「光り輝く『教育立県ちば』を実現する有識者会議」や「千葉県教育進行基本計画関係者会議」における意見聴取、パブリックコメントの実施により、学校現場や県民の声を反映した第2期教育振興基本計画「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」を平成27年2月に策定しました。



学習サポーター派遣事業

○今後の課題・取組方針

「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」を着実に推進するためには、行政はもとより、保護者、家庭、地域住民、企業・団体などが連携・協働して、プランの実行に取り組んでいくことが必要であり、そのため、広くプランの周知を図るとともに、連携・協働の体制づくりを進めます。

【教育の原点としての家庭の教育力の向上と人づくりのための連携】

○平成26年度実施状況

県内各地において、学校を核とした地域コミュニティの構築を図るため、学校・家庭・地域の人々が教育課題について語り合う「1000か所ミニ集会」を実施し、地域住民、福祉施設、企業との連携を強化しました。



1000か所ミニ集会

○今後の課題・取組方針

「1000か所ミニ集会」については、集会の活性化を図る必要があることから、活発な意見交換が行われるよう、企画段階から地域住民との連携を促進します。

(3) 基本目標Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備

政策分野1 千葉の輝く魅力づくり

【成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化】

○平成26年度実施状況

官民により設立された「成田空港活用協議会」等と連携・協力して、成田空港の利便性や本県の魅力を多様なメディアを活用して情報発信するとともに、県内事業者等を対象としたインバウンド需要に関するビジネス支援セミナーの開催（参加者数100人）や、国内線就航先都市である札幌等における空港利用促進のPRなど、県経済の活性化に向けた取組を実施しました。



国内線就航先都市でのPR（札幌）

○今後の課題・取組方針

東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、今後、成田空港を利用する人や物が増大することが予想されることから、これを県内経済の活性化に確実に結びつける必要があります。このため、県、市町村、民間事業者が一体となり、千葉県の魅力を戦略的に発信するとともに、広域観光ルートや旅行商品の開発、県産品の市場拡大などを一層推進します。

【千葉の「宝」を生かした観光立県の推進】

○平成26年度実施状況

外国人観光客の積極的な誘致を図るため、東アジアや東南アジアを中心に、知事のトップセールスや国際観光展への出展、商談会等を行うとともに、訪日教育旅行の誘致等を実施しました。



トップセールス（台湾）

○今後の課題・取組方針

東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、訪日外国人旅行者への対応を千葉県全体に広げ取り組んでいく必要があることから、海外のメディアや旅行会社、大学生等を対象としたモニターツアーを実施し、外国人から見た千葉の魅力の再確認を行い、訪日外国人の県内への誘客や滞在を促進します。

また、研修会を実施し、オール千葉でのおもてなし力の向上や外国語ボランティアの養成を図るとともに、多言語での案内表記を推進します。

【県経済の活力を生み出す産業の育成と企業立地促進】

○平成26年度実施状況

「千葉県立地企業補助金制度」を見直し、小規模な企業立地にも対応できるように新規立地に係る対象要件を敷地面積1,000㎡以上に変更するとともに、対象業種の拡大を図りました。

また、県内立地企業の再投資への支援制度を新たに創設しました。



企業誘致セミナー

○今後の課題・取組方針

企業の立地促進と地域産業の振興を図るため、拡充した立地企業補助金が有効に活用されるよう助成制度を広く周知するとともに、企業誘致セミナー等を実施することで企業誘致を強化します。

また、かずさアカデミアパークへの企業誘致を図るとともに、新たな企業の受け皿となる「茂原にいはる」「袖ヶ浦椎の森」の工業団地を地元市と共同で整備していきます。

【中小企業の経営基盤強化】

○平成26年度実施状況

中小・ベンチャー企業の技術・製品の市場性やブランド力を高めるため、優れた工業製品を「千葉ものづくり認定製品」として新たに12製品認定するとともに、販売促進に関する相談窓口の開設や専門家の派遣、近隣都県や大手メーカーと連携した商談会を開催し、販路拡大に向けた支援を実施しました。

千葉ものづくり認定製品



「鋼板折り曲げ加工機
サーボドライブ式プレスブレーキ」

○今後の課題・取組方針

新規創業等を後押しするとともに、景気動向に応じた資金需要の高まりに的確に対応するため、融資制度をより利用しやすくする必要があるので、中小企業のニーズの把握を的確に行うとともに、商工団体や金融機関等の関係団体と緊密に連携を取り、中小企業の資金繰りの円滑化を支援します。



「卓上型連続式乾式ビーズミル
ドライスター」



「熟練工ドライバー」

【戦略的な産地強化と高収益型農林水産業への転換の促進】

○平成26年度実施状況

「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」が行う、タイ、香港、シンガポールでの見本市への出展を支援するとともに、タイ及びマレーシアで県産農水産物のPR活動を行いました。

特に、タイでは、千葉県漁業協同組合連合会と連携して、初めて水産物についてもPRを行いました。



千葉県フェア（タイ）

○今後の課題・取組方針

海外における日本産食品の人気を受け、生産者団体の輸出への関心が高まっており、新たに輸出に取り組む団体への支援が必要であることから、「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を支援するとともに、市場動向や貿易実務ノウハウの情報提供など新規に輸出に取り組む生産者団体に対し支援を実施します。

【緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進】

○平成26年度実施状況

地域内外の人や企業等による雑草・かん木の除去などの耕作放棄地の再生活動や、間伐などの森林整備活動を支援し、耕作放棄地の解消や農山漁村の多面的機能の向上を図りました。



森林再生活動

○今後の課題・取組方針

農山漁村の人口減少や高齢化の進展により集落機能が低下し、耕作放棄地や荒廃森林が増加していることから、様々な人々による再生活動を支援するとともに、農地中間管理機構を活用し、荒廃が進む前に担い手への農地集積を進め、耕作放棄地の発生防止に努めます。

【交流基盤の強化】

○平成26年度実施状況

全国や県内各地とのスムーズな人・物の流れの強化を目指し、圏央道、外環道などの高規格幹線道路等の整備を促進するとともに、その整備効果を県内各地に波及させるため、銚子連絡道路・長生グリーンラインなどの地域高規格道路や高速道路のインターチェンジへアクセスする国道・県道の整備を進めました。



圏央道：稲敷 IC～神崎 IC 間の開通

特に、圏央道については、平成26年4月に茨城県の稲敷インターチェンジから神崎インターチェンジまでの間が開通し、本県に新たな北の玄関口が誕生しました。

○今後の課題・取組方針

地元市町村及び県内経済団体等の関係団体と連携を図り、高規格幹線道路の整備促進を国に強く働きかけます。

また、早期に供用が見込まれる箇所重点投資を図るなど、効率的な整備に努めます。

【人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進】

○平成26年度実施状況

鉄道駅エレベーターの設置（9駅18基）やノンステップバスの導入（10事業者68台）などについて、市町村や事業者に対し補助を行い、公共交通機関のバリアフリー化を促進しました。



鉄道駅エレベーター

○今後の課題・取組方針

公共交通機関のバリアフリー化については、国が定めた目標の達成に向け、引き続き鉄道駅バリアフリー設備整備事業補助金等を活用して、市町村や事業者の取組を支援し、さらなるバリアフリー化を促進します。

千葉県 総合企画部 政策企画課 政策室

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1番1号

電話：043-223-2483 FAX：043-225-4467

県HP：<http://www.pref.chiba.lg.jp/index.html>

